

平成23年7月12日
大阪市立自然史博物館
担当：学芸課学芸員 中条武司(第四紀研究室)
電話 06-6697-6222

パネル展「今 地震・津波を考える」の開催について

平成23年3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震は、地震の揺れと津波によって東北地方を中心とした日本各地に大きな被害を及ぼしました。そして改めて、日本に暮らす私たちにとって地震と津波は忘れてはならないものだと再認識させられました。そこで、2008年に大阪市立自然史博物館で開催した特別展「地震展2008」で使用した写真などを再度展示し、地震・津波に関する理解をみなさんに伝えたいと思います。

また、当館では今回の震災によって大きな被害を受けた陸前高田市立博物館の標本の修復に取り組んでいます。その取り組みの紹介と、修復された標本も展示します。

■開催概要

会 期：平成23年7月23日（土）～8月28日（日） ※月曜休館

時 間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

場 所：自然史博物館本館 本館2階イベントスペース

大阪市東住吉区长居公園 1-23（TEL:06-6697-6221/FAX：06-6697-6225）

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>

入場料：常設展の入館料（大人300円、高大生200円、中学生以下無料）でご覧いただけます。

協 力：岩手県立博物館

■主な展示

1. 地震展パネルより（約30枚）



<図1>

明治および昭和三陸地震津波の高さがかかれた崖（岩手県宮古市、2008年4月撮影）。手前の小屋をはるかに上回る高さまで津波がきたことに注目。今回の東北地方太平洋沖地震では、明治三陸地震津波に匹敵もしくはそれ以上の高さの津波がこの地域を襲いました。



<図2>

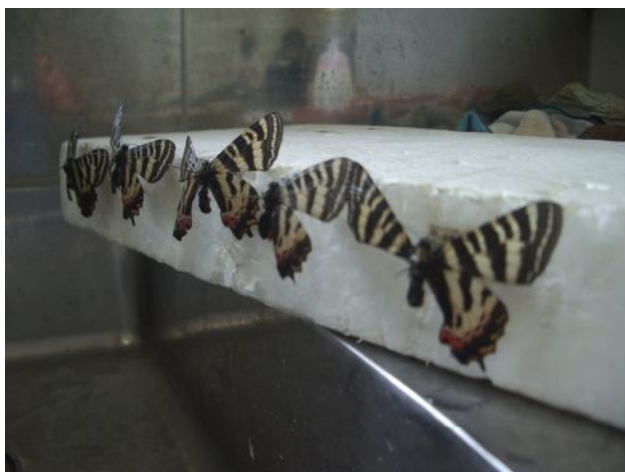
大阪市浪速区、木津川にかかる大正橋たもとに立つ「大地震両河口津波記」。1854年に大阪を襲った「安政南海地震津波」による被害の様子が刻まれています。

2. 修復標本（昆虫830点：チョウ類607点、ガ類5点、トンボ類218点、植物10点）より



<図3-A>

陸前高田市立博物館の標本修復の様子。
津波で被災したヒメギフチョウの標本。



<図3-B>

修復途中のヒメギフチョウの標本。



<図 4-A>

被災した陸前高田市立博物館収蔵の植物標本。

アツモリソウ（気仙沼群住田町産、1957年7月、鳥羽源蔵採集）

標本には砂や泥が被り、所々カビが発生していた。



<図 4-B>

修復した同じ植物標本。

水の中で植物やラベルについていた砂や泥を丁寧に落とし、被災前とほぼ同じ状態に戻すことができた。